

# 社会福祉法人 洛東園 定 款

## 第一章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、臨済宗東福寺の伝統とその宗教的  
信念に基づいて、福祉サービスを必要とする者が、心身ともに健やかに育成され、又は  
社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会を与えられるとともに、そ  
の環境、年齢及び心身の状況に応じ、その者の意向を尊重して地域において必要な福祉  
サービスを総合的に提供されるよう創意工夫することにより、その者が、個人の尊厳を  
保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目  
的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第一種社会福祉事業

- (イ) 養護老人ホーム洛東園の設置経営
- (ロ) 特別養護老人ホーム洛東園の設置経営
- (ハ) 特別養護老人ホーム修道 洛東園の設置経営
- (ニ) 養護老人ホーム御陵洛東園の設置経営
- (ホ) 特別養護老人ホーム御陵洛東園の設置経営

(2) 第二種社会福祉事業

- (イ) 老人デイサービス事業（洛東園デイサービスセンター）
- (ロ) 老人短期入所事業（洛東園ショートステイ）
- (ハ) 老人短期入所事業（修道 洛東園ショートステイ）
- (ニ) 老人短期入所事業（御陵洛東園ショートステイ）
- (ホ) 老人介護支援センター洛東園の設置経営
- (ヘ) 老人居宅介護等事業（洛東園ホームヘルプサービス）
- (ト) 老人居宅介護等事業（御陵洛東園ホームヘルプサービス）
- (チ) 障害福祉サービス事業（洛東園ホームヘルプサービス）
- (リ) 障害福祉サービス事業（御陵洛東園ホームヘルプサービス）
- (ヌ) 移動支援事業（洛東園ホームヘルプサービス）
- (ル) 移動支援事業（御陵洛東園ホームヘルプサービス）
- (ヲ) 小規模多機能型居宅介護事業（小規模多機能サービスもみじの家）

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人 洛東園という。

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的  
かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉  
サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努  
めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、地域の独居高齢者、経済的に困窮する者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。  
(事業所の所在地)

第4条 この法人の事務所を、京都府京都市東山区本町十五丁目794番地に置く。

## 第二章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名以上11名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、職員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。

3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

5 評議員選任・解任委員会の決議は、意見の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員1名が出席し、かつ、外部委員1名が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了するときまでとすることができる。

3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員に対して、評議員に対して、1人当たりの各年度の総額が10万円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬として支給することができる。

## 第三章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

2 評議員会に議長を置く。

3 議長は、その都度評議員の互選で定める。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。

4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名は、前項の議事録に記名押印する。

## 第四章 役員、総裁及び職員

(役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名以上10名以内
- (2) 監事 2名

2 理事のうち1名を理事長とする。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

3 理事長は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された役員任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 理事及び監事に対して、評議員会の決議により、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

(総裁)

第22条 この法人に総裁1名を置く。

- 2 総裁は、臨濟宗大本山東福寺住職をもってあてる。
- 3 総裁の任期は、東福寺住職の在任期間とする。
- 4 総裁は、理事長の諮問に応ずるものとする。

(職員)

第23条 この法人に、職員を置く。

- 2 この法人の園長及び副園長は、理事会の議決を経て、理事会において、選任及び解任する。
- 3 この法人の設置経営する施設の長（以下「施設長」という。）及び事務長は、理事会において、選任及び解任する。
- 4 第2項及び第3項以外の職員は、理事長が任免する。

## 第五章 理事会

(構成)

第24条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第25条 理事会は、次の職務を行う。但し、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長の選定及び解職

(招集)

第26条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第27条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項に議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第28条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 当該理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第六章 役員等の損害賠償責任

(責任の免除)

第29条 理事、監事が任務を怠ったことによって生じた損害について法人に対し賠償す

る責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、社会福祉法第四十五条の二十二の二において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百十三条第一項の規定により免除することができる額を限度として理事会の決議によって免除することができる。  
(責任限定契約)

第30条 理事(理事長、業務を執行したその他の理事又は法人の職員でないものに限る。)又は監事(以下この条において「非業務執行理事等」という。)が任務を怠ったことによって生じた損害について法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金壹円以上社会福祉法第四十五条の二十二の二において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百十三条第一項第二号で定める額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

## 第七章 資産及び会計

(資産の区分)

第31条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産及び公益事業用財産の3種とする。

- 2 基本財産は、別記基本財産目録に記載する財産をもって構成する。
- 3 その他財産は、基本財産及び公益事業用財産以外の財産とする。
- 4 公益事業用財産は、第39条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。
- 5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに別記基本財産目録に掲げるため、必要な手続きをとらなければならない。

(基本財産の処分)

第32条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、京都市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、京都市長の承認は必要としない。

- 一 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- 二 独立行政法人福祉医療機構と協調融資(独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。)に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合(協調融資に係る担保に限る。)
- 三 社会福祉施設整備のための資金に対する融資を行う確実な民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合で、当該事業計画が適切であるとの関係行政庁による意見書を京都市長に届け出た場合。なお、当該貸付に係る償還が滞った場合には、遅滞なく京都市長に届け出るものとする。

(資産の管理)

第33条 この法人の資産は、理事会に定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実

な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第34条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、この法人の主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第35条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)

(5) 貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書

(6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事並びに評議員の名簿

(3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 事業の概要を記載した書類

(会計年度)

第36条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第37条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第38条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

## 第八章 公益を目的とする事業

(種別)

第39条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持

しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

- (1) 居宅介護支援事業
    - (イ) 居宅介護支援事業所洛東園
    - (ロ) 居宅介護支援事業所御陵洛東園
  - (2) 地域支援事業を市町村から受託して実施する事業
    - (イ) 京都市洛東地域包括支援センター
    - (ロ) 京都市東山区地域介護予防推進センター
  - (3) 介護予防サービス事業
    - (イ) 介護予防訪問介護事業（洛東園ホームヘルプサービス）
    - (ロ) 介護予防訪問介護事業（御陵洛東園ホームヘルプサービス）
    - (ハ) 介護予防通所介護事業（洛東園デイサービスセンター）
    - (ニ) 介護予防短期入所生活介護事業（洛東園ショートステイ）
    - (ホ) 介護予防短期入所生活介護事業（修道 洛東園ショートステイ）
    - (ヘ) 介護予防短期入所生活介護事業（御陵洛東園ショートステイ）
  - (4) 地域密着型サービス事業
    - (イ) 認知症対応型通所介護事業（洛東園デイサービスセンター）
    - (ロ) 介護予防小規模多機能型居宅介護事業（小規模多機能サービスもみじの家）
  - (5) 診療所事業（社会福祉法人洛東園診療所）
  - (6) 訪問看護事業（社会福祉法人洛東園診療所）
  - (7) 社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業
    - (イ) 喀痰吸引等研修登録研修機関（洛東園研修センター）
    - (ロ) 実務者養成施設通信課程（洛東園研修センター）
- 2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

## 第九章 解散

（解散）

第40条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

（残余財産の帰属）

第41条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。



## 第十章 定款の変更

(定款の変更)

第42条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、京都市長の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を京都市長に届け出なければならない。

## 第十一章 公告の方法その他

(公告の方法)

第43条 この法人の公告は、社会福祉法人 洛東園の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第44条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

## 附 則

1 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	奥	野	康	宗
理事	岡	根	守	堅
〃	〃	直	木	義
〃	〃	高	橋	浩
〃	〃	平	住	温
監事	中	村	長	太
〃	〃	爾	法	岑

2 この定款は、平成29年4月1日から施行する。

## 附 則

1 この定款は、平成31年2月1日から施行する。

## 附 則

- 1 この定款は、令和2年12月1日から施行する。

## 附 則

- 1 この定款は、令和3年9月3日から施行する。

## 基本財産目録

〔所在地〕京都市東山区本町15丁目794番地

番号	物件	構造	建築名	棟数	面積
1	建物	鉄筋コンクリート鉄骨造ルーフینگ葺 地下一階渡り廊下付二階建	利用者居室 (北 寮)	4	1,538.80 m <sup>2</sup>
2	建物	鉄筋コンクリート造陸屋根 地下一階付三階建	食堂・厨房・診療所 利用者居室(特養棟)	1	1,983.02 m <sup>2</sup>
3	建物	鉄筋コンクリート造陸屋根 地下一階付三階建	デイサービスセンター・居宅 介護支援事業所・地 域包括支援センター・地 域交流広場(デイ棟)	1	659.60 m <sup>2</sup>
合 計					4,181.42 m <sup>2</sup>

番号	物件	所在地	地積
4	土地	京都市東山区渋谷通本町東入三丁目上新シ町 358 番地	1418.01 m <sup>2</sup>
5	土地	京都市東山区建仁寺町五条下る一丁目東入芳野町 90 番地	532.71 m <sup>2</sup>
6	土地	京都市東山区建仁寺町五条下る一丁目東入芳野町 108 番地	381.96 m <sup>2</sup>
合 計			2,332.68 m <sup>2</sup>

〔所在地〕京都市東山区渋谷通本町東入三丁目上新シ町 358 番地  
京都市東山区建仁寺町五条下る一丁目東入芳野町 90 番地

番号	物件	構造	建築名	棟数	面積
7	建物	鉄筋コンクリート造 地下一階付四階建	居室・厨房・医務室 共同生活室・地域交 流センター	1	3,690.22 m <sup>2</sup>
合 計					3,690.22 m <sup>2</sup>

番号	物件	所在地	地積
8	土地	京都市山科区御陵岡町1番2	303.87 m <sup>2</sup>
9	土地	京都市山科区御陵岡町1番3	55.13 m <sup>2</sup>
10	土地	京都市山科区御陵岡町3番1	1.86 m <sup>2</sup>
11	土地	京都市山科区御陵岡町3番3	26.13 m <sup>2</sup>
12	土地	京都市山科区御陵岡町3番4	47.06 m <sup>2</sup>
13	土地	京都市山科区御陵岡町3番5	61 m <sup>2</sup>
14	土地	京都市山科区御陵岡町4番1	25.63 m <sup>2</sup>
15	土地	京都市山科区御陵岡町51番1	376.01 m <sup>2</sup>
16	土地	京都市山科区御陵岡町51番4	229 m <sup>2</sup>
17	土地	京都市山科区御陵岡町52番1	52.44 m <sup>2</sup>
18	土地	京都市山科区御陵岡町52番3	48.78 m <sup>2</sup>
19	土地	京都市山科区御陵岡町52番4	61 m <sup>2</sup>
20	土地	京都市山科区御陵岡町52番5	90 m <sup>2</sup>
21	土地	京都市山科区御陵岡町53番1	396.10 m <sup>2</sup>
22	土地	京都市山科区御陵岡町53番2	51.41 m <sup>2</sup>
23	土地	京都市山科区御陵岡町53番3	536.72 m <sup>2</sup>
24	土地	京都市山科区御陵岡町54番	1297.61 m <sup>2</sup>
25	土地	京都市山科区御陵岡町54番4	399 m <sup>2</sup>
26	土地	京都市山科区御陵岡町54番乙	309.07 m <sup>2</sup>
27	土地	京都市山科区御陵岡町55番	16.65 m <sup>2</sup>
27	土地	京都市山科区日ノ岡ホッパラ町59番1	188.38 m <sup>2</sup>
28	土地	京都市山科区日ノ岡ホッパラ町59番3	877.95 m <sup>2</sup>
29	土地	京都市山科区日ノ岡ホッパラ町59番4	161 m <sup>2</sup>
30	土地	京都市山科区日ノ岡ホッパラ町59番5	298 m <sup>2</sup>
合計			5,909.80 m <sup>2</sup>

〔所在地〕京都市山科区御陵岡町 54 番地、51 番地 1、52 番地 1、  
 52 番地 3、53 番地 1、53 番地 2、53 番地 3  
 京都市山科区日ノ岡ホッパラ町 59 番地 3

番号	物件	構 造	建 築 名	棟数	面 積
3 1	建物	鉄骨造陸屋根四階建	居室・厨房・医務室 共同生活室・地域交 流スペース	1	6,938.89 m <sup>2</sup>
合 計 6, 9 3 8 . 8 9 m <sup>2</sup>					